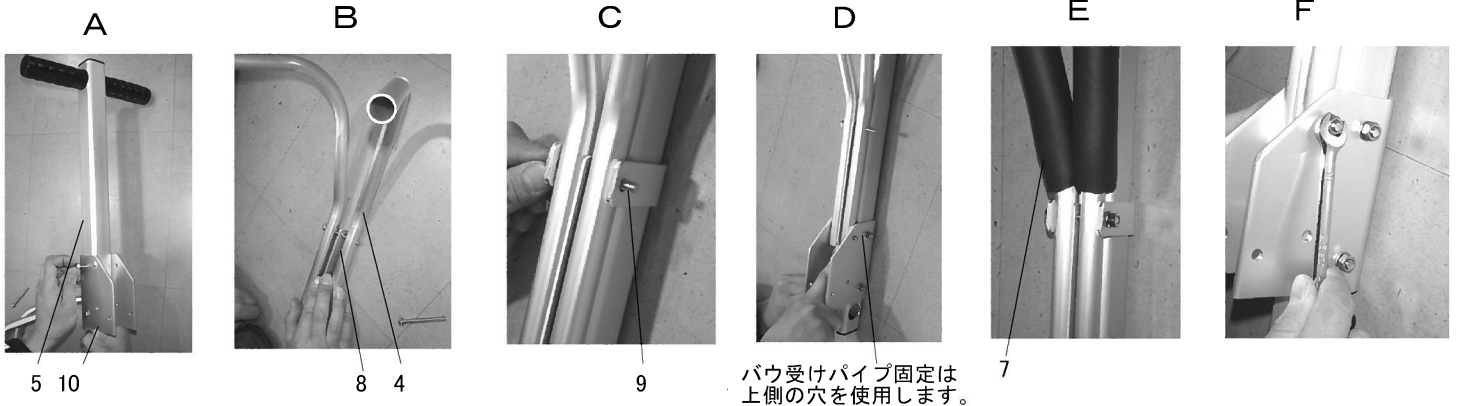


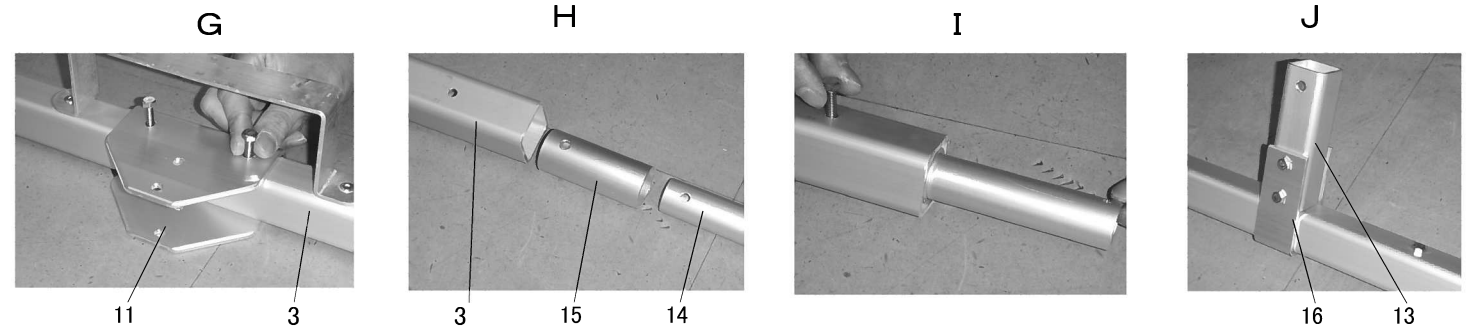
全体の完成写真(左)を見て組み立てて下さい。

ボルト、ビス、ナット、の締結には潤滑剤を塗布するとネジのロックを防止出来ます。

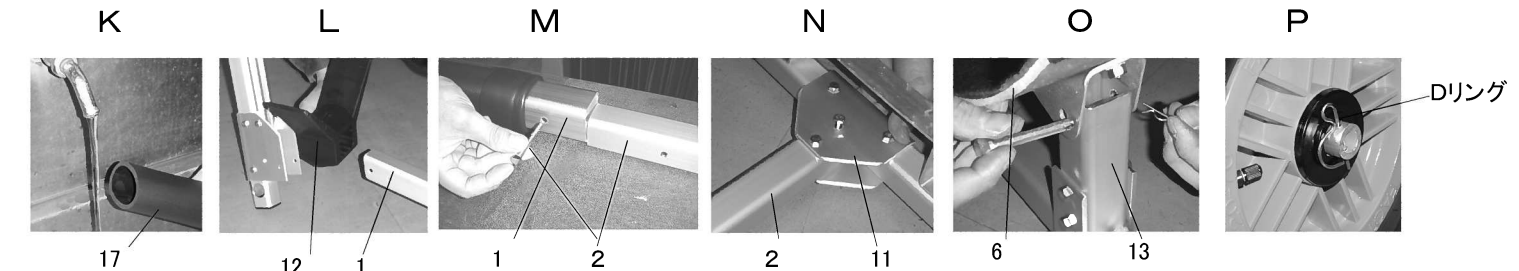
S=ミニホッパー
M=レーザー、シーマーチン
L=シーホッパー



- A 前取っ手を組み込みます ⑤取っ手立ちあがりパイプに⑩アルミシルブラケットを⑩ビニールパックのホルト6-55(長い方)+スプリングワッシャー、ナット、で仮組みします。
- B ④BY350パウ受けパイプ(左右有)で③アルミ板を挟み込み仮のホルトを差します。
- C ⑨BY350受け用25mmブラケットをホルト6-55(長い方)+スプリングワッシャー、ナット、で組み込みます。
- D 仮組み全体
- E ⑦BY350パウクッションチューブを④パウ受けパイプに根元まで強く差込みます。
- F ボルトを増し締めします。



- G ⑪アルミTブラケットを③車軸フレームにホルト6-55(長い方)+スプリングワッシャー、ナット、で組み込みます。
- H ⑮車軸シャフトカバー、⑭車軸、を③車軸フレーム、両端にホルト6-45(短い方)+スプリングワッシャー、ナット、で組み込みます。
- I 組み込み図
- J ⑬受け高調整フレームと⑯連結固定金具をホルト6-55(長い方)+スプリングワッシャー、ナット、で車軸用メインフレームに組み込みます。固定位置は端から250mmです(随時調整してください)



- K ⑰クッションチューブと⑱受けゴム新型に水をつけて①前中央パイプに通します(向きに注意、斜めカット面が写真の様に)
- L ⑫前受けゴムを①前中央パイプに通します(水を付けて下さい)
- M ①前中央パイプと②後ろ中央パイプをジョイントし(M6-50ホルト&N)、ジョイント部にクッションチューブをずらし(固いので水を付けて下さい)
- N 組み込み済みの⑪Tブラケットと②後ろ中央パイプをホルト6-55(長い方)+スプリングワッシャー、ナット、で固定します。
- O ⑥受けを⑬受け高さ調整パイプに⑩ビニールパックと同封のホルトM8-55テンソウを松葉ピンで固定します(カタが有る状態でOKです)
- P タイヤ(A-B-J有り)を車軸シャフトにはめ込みます(空気バルブが外側) ⑩ビニールパック同封のディールックで止めます。

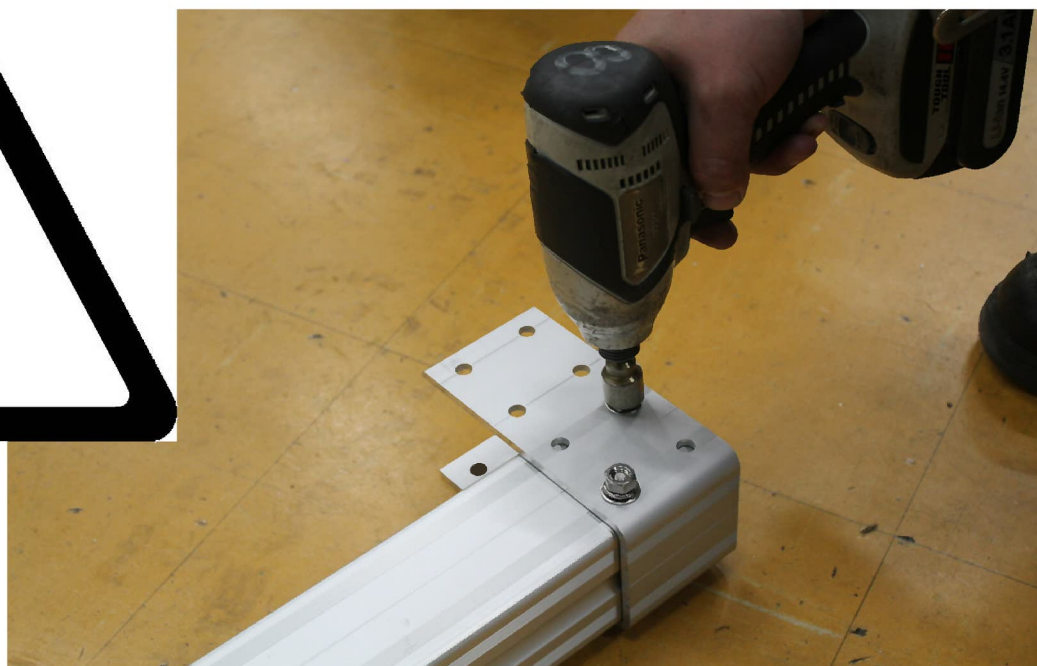
■使用上の注意
 ●BY-350はエンジンヨット以外の艇は載せないで下さい破損の原因になります。
 ●エンジンヨットを使用する前に必ずネジ、ボルト類の点検、締め直しをしてください、緩んだまま使用するとフレーム等破損の原因になります。
 ●悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください、無理をしますとフレーム等破損の原因になります。
 ●ヨットエンジン初心者の方は熟練者と一緒にご使用下さい

TA40A(Aタイヤ)(アルミランチャーに使用)
 タイヤ空気圧は約0.8KG~1.0KG位にてお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります、又冬場は逆に低温にて空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください。
 車内等に入れる場合走行中や停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
 空気圧の少ないまま使用したり保管いたしますとチューブの損傷やタイヤの劣化が早まりますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。
 空気はガソリンスタンドの空気入れで入れられます。

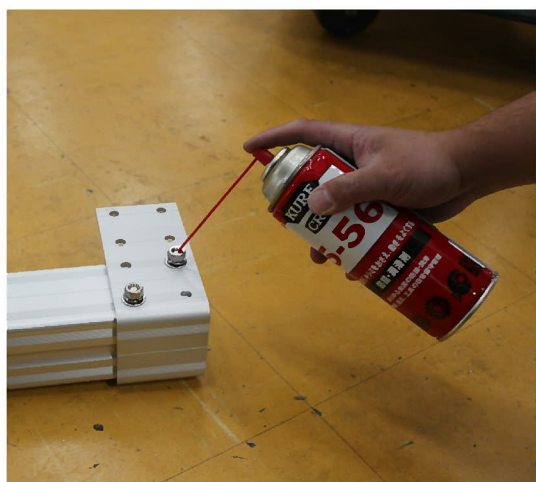
<<ボルトの締め付け、取扱い注意>>

ステンレスのボルトやナットをインパクトレンチなどで急激に締め付けるとネジの嵌め合い部で摩擦による熱が発生し、その熱によってネジ部が膨張し、オネジとメネジが密着し焼付きを起こし動かなくなることがあります。そのまま締め付けていくとボルトが折れることもありますのでご注意ください。
また必ず潤滑剤を塗布してから締め付けをしてください。

ナイロンナットにはすでにオイル等を塗布してパックされていますが、地面に落としたり、砂埃で砂が付着した際はきれいにしてから再塗布をし締め付けをしてください。



急激な 締め付け注意！



潤滑剤を塗布してください。

タイヤご使用上の注意

このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
弊社のエアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

TA40F/TA40G/TA40J (ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用)

- チュープレスタイヤですのでチューブは入っておりません。
- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。特に夏場は直射日光で内圧が高まりますので必ず数値内でご使用下さい。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が低下するとタイヤの内圧が下がり、チュープレスタイヤなので空気が抜けてしまう場合が有ります。船を載せて保管される場合は時々空気圧のチェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置すると、ヒビ割れして空気の再注入が不可能となってしまいます。長期保管の場合には、台車の下にブロック等を入れておく事をお勧めします。
- エアー漏れでも早期に対処していただければ十分再生します。時々点検していただくようお願い致します。

TA40A(アルミランチャー、トランサムドローリー等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。
- 交換用タイヤ(外側)とチューブは別途販売しています。適宜交換下さい。

TA30D(サーフ系ランチャー、Z071 前輪等に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0kg～1.5kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。

上記全てのタイヤについて





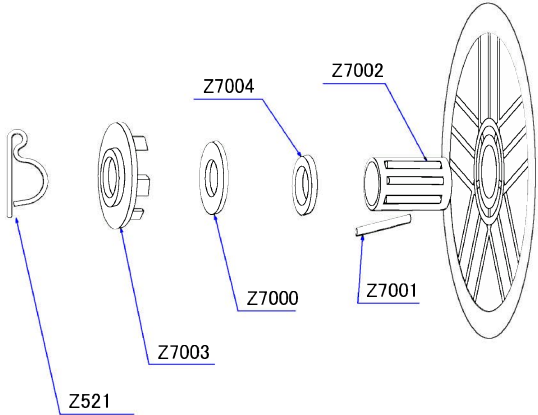
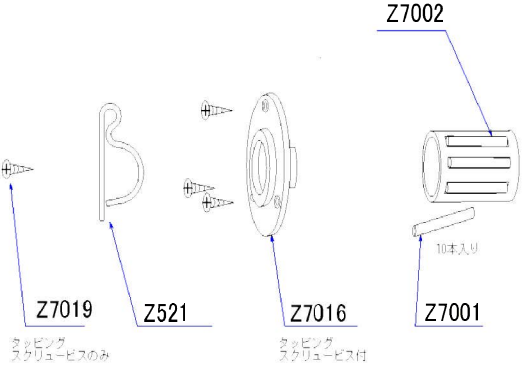
- 車軸部にベアリングが内蔵してあります。ベアリング部にはグリス等を塗布しないようにして下さい。砂、埃、が付着して磨耗の原因となります。ベアリング部は良く水洗いしてください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気は、ガソリンスタンド等に置いてある自動車、バイク用の空気入れで入れられます。一般自転車用の空気入れではバルブ形状が合いません。詳しくはHPをご覧ください。

空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1

2018年よりTA40系のベアリングが変更になりました。

下記、相違表をご確認ください。

	旧	新
	2017年まで	2018年から
品番	TA30系	TA40系
キャップ色	ブラック	グレー
固定方法	打ち込み式	ビス止め式
キャップ		 ※適宜ゆるんでないか確認してください。
リム形状	 打ち込み式の形状です	 ※穴は2つ並んであります ビスが締め切らなくなりましたら 隣の穴をご使用ください。 ビス用の穴があります
部品図	 Z521, Z7003, Z7004, Z7000, Z7002, Z7001	 Z7019, Z521, Z7016, Z7002, Z7001 <small>※Z7019はスクリュービスのみ</small> <small>※Z7016はスクリュービス付</small>
	部品図のZ7003は TA40系には使用できません	部品図のZ7016は TA30系には使用できません